

## 人工巢台に営巢したオオルリ

小林繁樹<sup>1</sup>・井上八郎<sup>2</sup>・弘中 毅<sup>3</sup>

1. 〒745-0802 山口県徳山市栗屋坂田948-24 E-mail:kobayashi.s@do.enjoy.ne.jp
2. 〒740-1413 山口県玖珂郡由宇町3334-16
3. 〒741-0061 山口県岩国市錦見6-12-1

### はじめに

オオルリ *Cyanoptila cyanomelana* は、中国東北部、ウスリー、朝鮮半島や日本で繁殖し、インドシナ半島から大スンダ列島、フィリピンなどに渡って越冬する (中村・中村 1995)。日本には夏鳥として渡来し、南西諸島を除く北海道から九州までの全国各地で繁殖する (中村・中村 1995)。自然の樹洞に巣をつくったり、木や崖のくぼみに営巢する鳥は、人工的な巢穴あるいは巢台に巣をつくる傾向があり、日本ではこれまでに、26種の鳥が人工営巢場所を利用していることが知られているが、オオルリについては、まだ巢箱や巢台を利用した繁殖記録は報告されていない (小池・樋口 1989)。しかしながらオオルリは人工構造物に営巢したり (清棲 1978, 沼沢ほか 1988, 小林ほか 1993, 弘中 1995)、林道の山側斜面、赤土の壁の人工穴で造巢を行なった例 (川本 1992) が報告されていることから、小林ほか (1993) は巢台を架設すれば繁殖に利用する可能性を指摘し、数か所の人工構造物に巢台を架設した。

その結果、今回筆者らは山口県玖珂郡由宇町の山林でオオルリが人工建造物に架設した巢台に営巢した事例を確認できたので状況を報告する。

### 巢台設置場所の環境および設置状況

今回オオルリが人工巢台で繁殖した山口県玖珂郡由宇町錢壺山 (34°01'N, 132°12'E) は山口県の東部の山地である。巢台を設置したのは錢壺山山頂 (標高540.1m) に至る林道のそば、標高450m程の場所にある幅320cm, 奥行き260cm, 高さ320cmの切妻屋根のログハウス風屋外トイレの外壁面である。トイレの外壁は直径13cm程のスギの丸太を積み重ねて作られており、巢台は屋外トイレの道路側からは見えない東側と南側の外壁で壁面が直角に接する角の部分の地上185cmの位置に設置した。巢台の大きさは、長さ35cm, 幅18cm, 厚さ1.0cmの板で、釘で固定した (図1)。周囲の環境は山地の谷川沿いでスギ *Cryptomeria japonica*, ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* 林とヤマザクラ *Prunus jamasakura*, エゴノキ *Styrax japonica*, コナラ *Quercus serrata*, ネムノキ *Albizia julibrissin* などの広葉樹が混交する林で付近にはノイバラ *Rosa multiflora*, ススキ *Miscanthus sinensis*, セイタカアワダチソウ *Solidago altissima* などが繁茂していた。屋外トイレは道路に面していて、前面が開けているものの、すぐ近くまで山地が迫り、特に巢台を架設した壁面側はヤマブドウ *Vitis coignetiae* がから

2000年9月19日 受理

キーワード：オオルリ, 繁殖記録, 人工巢台



図1. オオルリの営巣した環境と巣台の架設位置 (2000年7月10日)

Fig. 1. Nest site of the Blue-and-white Flycatcher. A nest-board attached to the restroom wall. (July 10, 2000).



図2. 巣台に営巣するオオルリ (2000年6月1日)

Fig. 2. A nest of the Blue-and-white Flycatcher on the nest-board attached to an artificial structure (June 1, 2000).

みついたスギ、コナラの枝が屋外トイレの屋根を覆うように枝を伸ばしており薄暗くなっていた。

#### 観察結果

1999年5月13日に巣台を設置した。5月21日から7月20日のあいだ、1週間から2週間おきに9回観察に出かけたが、付近でオオルリのさえずりが聞かれるものの巣台に変化はなく、



図3. 巣台上のオオルリと思われる古巣 (1997年8月4日)

Fig. 3. An abandoned nest possibly built by a Blue-and-white Flycatcher on a nest-board attached to the ledge of a temple (August 4, 1997).

この年は利用されなかった。2000年5月9日に利用状況を確認に出かけたが巣台に変化はなかった。5月15日には付近でオオルリのさえずりを聞いたが巣台には変化はなかった。5月28日に2つの巣台のうち南側の巣台上にコケ類を主材とした巣ができており、オオルリの雌が座っていた。巣は巣台のうち壁面が直角に接する角の部分に板幅一杯につくられていたが、巣台の面積の約1/2程度を占めているだけであった。この時にはすぐその場を離れたので、巣にヒナがいるのか抱卵中なのかはわからなかった。5月30日に、巣に親鳥がいなかったので内部をのぞくとふ化後3～4日と思われるほとんど赤裸のヒナ4羽が巣中にうずくまっていた。その後、雌雄の給餌を確認した。6月1日には巣内に黒っぽい産毛がわずかに生えたヒナ4羽がいて少し頭部が見えるだけであったが、時々頭を持ち上げ黄色の口角の目立つ嘴を大きく広げて求餌声をあげていた(図2)。観察中に雄1羽が2回給餌した。6月2日にはヒナが時々頭を上げ、嘴を大きくあけるのが見られた。観察中雄が1回、雌が2回給餌に訪れるのを確認した。6月5日には巣に親鳥の飛来がなくヒナの求餌声もないため、巣を確認すると巣内は空でヒナがいなくなっていた。巣は外装のスギゴケが巣台から垂れ下がり産座部分にも少し変形があった。また、巣立ちにはあまりにも早いため、人による持ち去りかアオダイショウ *Elaphe climacophora*、イタチ *Mustela itatsi*、ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* などによる捕食の可能性が高いものと思われた。6月6日、8日も親鳥の飛来がないため、再営巣をうながす目的で巣材を取り除いた。しかし、6月21日、7月10日と観察を行なったが付近でオオルリの姿やさえずりは認められず、再営巣は行なわれなかった。今回オオルリが営巣した巣はコケ類を主材としておりごくわずかさぎ、ヒノキの葉を利用し、産座には木の細根と黒色で直径0.1～0.7mmで長さが17～40cmほどの糸状の化学繊維をもちいていた。採取時重量は39g、地上高185cm、外径は長径18.0cm、短径16.0cm、内径は長径8.0cm、短径6.

5cm, 深さ8.0cm, 高さ13.0cmであった。

これ以外に人工巣台を鳥類が利用した2例を記録したのであわせて下記する。1993年7月22日に玖珂郡周東町祖生にある長宝寺の観音堂の梁上に巣台を架設して(小林ほか 1993), 1994年は時々状況を確認していたが, 利用がなく観察を中止した。ところが1997年8月4日に訪れたところ, 架設した2つの巣台のうちの1つにコケ類を主材とした巣があるのを確認した(図3)。巣材のコケ類が茶褐色に変色していることから1995年あるいは1996年の繁殖期に利用されたものと思われ, 巣材や形状等からオオルリの巣と思われた。巣台は観音堂裏側の梁上で地上320cmの位置に, 長さ27cm, 幅17cm, 厚さ0.55cmの板で, 縁取りとして長手方向の先端に幅1cm, 厚さ0.55cmの板を付けたものを当て板(27×5cm)で固定し, 壁と梁のあいだの隙間に差し込んで取りつけた。もう1例は島根県鹿足郡六日市町深谷公園の屋外トイレの外壁面に長宝寺と同じ大きさの巣台を1993年7月10日に架設したが(小林ほか 1993), 1994年6月1日に2つの巣台のうちの1つに, コケ類を主材とした巣があり卵が3個あった。6月3日昼には卵4個があり, 夕方オオルリの雌が抱卵しているのを確認した。6月5日にも雌が抱卵していたが, 6月10日には巣の中に卵がなく, 近くでオオルリ雄のさえずりは聞こえたものの雌の姿はなかった。6月14日に巣を撤去して再営巣をうながしたが, その後利用はなかった(川本美千夫氏 私信)。

## 考 察

オオルリの繁殖環境は自然環境下では崖, 岩崖, 土手, 樹洞などであるが(清棲 1978, 高野 1981), しばしば人工構造物にも営巣し(清棲 1978, 沼沢ほか 1988, 小林ほか 1993, 弘中 1995), 周囲に営巣可能な自然環境が十分にある場合でも人工構造物に巣をつくっており(小林ほか 1993, 弘中 1995), 営巣環境さえ整えばむしろ積極的に人工構造物を利用していると思われる(小林ほか 1993)。

また, 巣は垂直な壁面に付着した棚状になった突起物の上につくられるが, 沼沢ほか(1988)や小林ほか(1993)によれば, 上部を樹木が覆ったり, 家屋のひさしがせり出していて被度が高く, 薄暗い場所が選ばれ, 巣の前面はある程度開けていて, 周囲がよくみわたせることなどが営巣環境として必要である。

このことから自然環境下でもこのような営巣環境が整っている場所, たとえば山間部の自然公園内にある屋外トイレ, 休息所などの人工構造物に巣台を設置してやれば今回の事例のように比較的容易にオオルリの営巣を誘引出来るものと考えられる。

その場合, 今回の観察途中で巣中のふ化後間もないヒナが突然消失した原因として考えられる人為的攪乱(人による持ち去り)を防ぐためには, 繁殖期に営巣場所への立ち入りを制限したり, 捕食性動物による影響を避けるために巣台の取り付け位置をへび類などが登る足がかりを与えないよう外壁の角の部分の部分を避け中央部にし, 壁面を合成樹脂製波板で覆うなどが有効と思われる。

## 謝 辞

本報を作成するにあたり、川本美千夫氏には深谷公園のトイレに架設した巣台に営巣したオオルリについて観察記録をご教示いただいた。紙面を借りて厚くお礼申し上げる。

## 引用文献

- 弘中毅. 1995. オオルリの巣立ち観察記. 山口野鳥 28: 11-17. 日本野鳥の会山口県支部.  
 川本美千夫. 1992. オオルリの人工穴での造巣について. Strix 11: 333-335.  
 清棲幸保. 1978. 増補改訂版日本鳥類大図鑑. 講談社, 東京.  
 小池重人・樋口広芳. 1989. 人工営巣場所の種類と架設効果. Strix 8: 1-34.  
 小林繁樹・川本美千夫・弘中毅. 1993. オオルリの人工構造物への営巣2例. Strix 12: 234-238.  
 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑. 保育社, 大阪.  
 沼沢篤・薄井英司・溝口俊夫. 1988. オオルリの建造物への営巣例. Strix 7: 285-287.  
 高野伸二. 1981. カラー写真による日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会, 東京.

## Nesting record of the Blue-and-white Flycatcher on a nest-board attached to an artificial structure

Shigeki Kobayashi<sup>1</sup>, Hachiro Inoue<sup>2</sup> & Tuyoshi Hironaka<sup>3</sup>

1. 948-24 Kuriya-sakata, Tokuyama-shi, Yamaguchi 745-0802, E-mail:kobayashi.s@do.enjoy.ne.jp
2. 3334-16 Yu-cho, Kuga-gun, Yamaguchi 740-1413
3. 6-12-1 Nishikimi, Iwakuni-shi, Yamaguchi 741-0061

We found a Blue-and-white Flycatcher *Cyanoptila cyanomelana* nesting on a nest-board attached to an artificial structure on Mt. Zenitubo in Yu-cho, Kuga-gun, Yamaguchi Prefecture in June 2000. This is the first nesting record of a Blue-and-white Flycatcher on a nest-board attached to an artificial structure in Japan.

*Key words:* breeding record, *Cyanoptila cyanomelana*, nest-board, nesting on artificial structure